

## 巻頭言

## 公共施設のコンセッション

東急建設株式会社

代表取締役会長

飯塚 恒生



「コンセッション」という言葉を最近よく聞くようになりました。内閣府はコンセッションを「利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま施設の運営権を民間事業者に設定する方法」としています。二〇一五年の但馬空港の運営事業に始まり、すでに道路、文教施設、下水道などの分野で導入されています。また、上水道や工業用水道などでも今後の導入について各地で検討が進められています。

県や市といった地方自治体では行政需要が増加する一方、行政コストの削減が求められています。このため、地方自治体が整備した公共施設の運営を民間企業に委ねることはひとつの有効な手法と考えられるようになってきました。

弊社もコンセッションにより浜松市の公共下水道終末処理場の運営を中核とする事業に参加しています。二〇一八年四月から新たに設立された浜松ウォーターシンフォニー株式会社が二〇年間の計画で下水処理施設の運営を行っています。この会社には国内外の上下水道の運営に長い経験がある会社、下水道施設の設計や施工の実績があるエンジニアリング会社、財務面を担当する金融サービス会社、施設の建設や修繕の面から地元の建設会社に加えて弊社も出資しています。

一般的に上下水道では費用の大きな部分は固定費であり、需要が

減少したからといって運営コストがそれに応じて減るという事業構造になっていません。浜松市では、二〇一〇年に八〇万人程度であった人口が、二〇四〇年には七〇万人程度まで減少すると予測しています。人口の減少が進行すると上下水道の利用も減り、料金収入も縮小します。また、施設の老朽化に伴う修繕費用の増加や担当職員の高齢化によるノウハウの継承も大きな課題になっています。そこで、各種の課題に対してノウハウを持つ民間企業がこの分野で協力できることがコンセッションに期待されているものであると考えています。

下水処理は区域内で発生する汚水を法令で定められた水準まで浄化して公共用水域に排出することが使命であり、浜松市の施設ではこれを担保すべく運営権者と浜松市がそれぞれでモニタリングを実施しています。そして、コンセッション契約の終了時に施設が継続して機能を果たしつつ、運営が可能である状態で浜松市に引き渡すことになっています。浜松ウォーターシンフォニー株式会社が期待されている使命を果たし、浜松市や市民の皆様から信頼が得られるよう弊社としても協力を惜しまない所存です。

このような業務を実施する中から得られる知見を蓄積し、弊社として水分野の仕事に対し一層貢献できるように取り組んでまいります。